

環境教育

森林環境教育の手法と進め方

日時：平成26年10月11日（土） 10:00～15:00

講師：増田 直弘（(公財)キープ協会環境教育事業部 事業部長）

概況



科目名：環境教育（森林環境教育の手法と進め方）

講師：公益財団法人キープ協会環境教育事業部 事業部長 増田 直弘

1時限目：森林環境教育プログラム体験（海上の森）

海上の森にある幼児森林体験フィールドにて、森林環境教育の体験学習を行いました。草笛や葉っぱでじゃんけんなど、環境教育の原点は「体験を通しての遊び」であることを肌で感じていただきました。

2時限目：森林環境概論①

環境教育とは、環境問題解決の手法の一つである。法や制度による規制や、ハイブリッド車の開発などの対症療法的手法と異なり、人々の意識やライフスタイルの变革を促す根本療法的手法である点に特徴がある。

環境問題が起こる原因は様々あるが、ここでは二つの視点から考える。1つは、自然と人間との関係の崩壊である。公害や森林伐採など、「人間>自然」という意識が引き起こすとする考え方。もう1つは、自然と人間との関係の崩壊である。戦争による自然破壊や難民問題など、「人間≠人間」という意識が引き起こすとする考え方。これら2つの関係を再構築する活動が環境教育である。

環境問題のない社会とは、持続可能な社会であり、自然と人間との関係、人間と人間との関係が持続する社会であると言える。

3時限目：森林環境概論②

森林環境教育を3種類に分類。森林の中での環境教育(in)、森林についての環境教育(about)、森林のための環境教育(for)。この3要素をバランスよく育み、誰のための環境教育かを明確にしていくことが大切。

4時限目：森林環境教育アイデアワークショップ

「海上の森でどんな環境教育ができるか」をテーマに、6グループに分かれてディスカッションを行いました。講師の増田先生から、「地域性」と「季節性」をヒントに考えていくと良い、とのアドバイスをいただきました。

まとめ

2000年以前の環境教育は、大きく3つに分類されていた。ビオトープ作りなどの自然系、公害教育などの生活系、国際理解教育などの地球系である。しかし近年、この3つの境界がなくなってきており、最終的には全ての分野を包含した総合系環境教育という新たな分野が誕生した。この総合系環境教育のことを、「持続可能な開発のための教育」(ESD)と呼んでいるのである。